

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|----|--|--------------------------------|-----------|------|----------|----------|--------------|----|
| 科目名 | 人体の構造Ⅱ | | 科目 コード | N20003・・・1年生 N20025・・・2年生以上 | 単位数 時間 | 1単位 | 対象 学年 | 1年 | 開講 学期 | 後期 |
| | | | | | | 30時間 | | | | |
| 区分 | 看護基礎科目 | 必修 | 担当者名 | 千葉正司 | | | | 授業 形態 | 講義 | 単独 |
| | | | | | | | | | | |
| 授業の 概要 | <p>前期の「人体の構造Ⅰ」の知識を反復し、「入門人体解剖学」を熟読し、解剖学の広範で必須の基礎知識を習得する。「線描人体解剖学」「線描骨学実習」の線描図を部分的に着色しながら、すべての器官系（運動器、消化・呼吸器、泌尿・生殖器、内分泌器、循環器、神経系、感覚器）を局所解剖学的に復習し、更なる人体構造の理解に努める。</p> <p>人体組織プレパラートの検鏡とスケッチ、人体模型標本の観察とスケッチ、実習体のスライド映写を通して、人体を構成する組織構造と働き、各器官の名称・働きと相互の位置的関係を学ぶ。</p> | | | | | | | | | |
| 到達 目標 | <p>1. 前期授業の「人体の構造Ⅰ」での知識を反復し、解剖学の広範で必須の基礎知識を身につける。</p> <p>2. 器官系（運動器、消化・呼吸器、泌尿・生殖器、内分泌器、循環器、神経系、感覚器）を局所解剖学的に復習して、必須の基礎知識を隣接器官との位置的関係から理解できるようにする。</p> <p>3. 自分の身体各部を動かし、骨格や筋肉を自身に投影させて、骨・筋の位置関係や血管走行を理解できるようにする。また、基礎的な器官の組織構造を学ぶ。</p> | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | | | | | |
| 回 | 主 題 | | 授業内容（授業時間外の学修を含む） | | | | | | 備 考 | |
| 第1回 | 人体の発生（初期発生）、授業進行と課題等（模型と検鏡スケッチ） | | ガイダンス、入門人体解剖学333～350頁の学習、後期・第1回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第2回 | 頭部（頭蓋・関節・筋・血管・脳神経・脳底動脈）、前期の復習 | | 頭部の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習1・2、後期・第2回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第3回 | 頸部（脊柱・関節・筋・内臓・血管・リンパ節・神経）、前期の復習 | | 頸部の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習3・4、後期・第3回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第4回 | 胸部（胸郭・筋・心臓・肺門・縦隔・血管・リンパ節・神経）、前期の復習 | | 胸部の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習5・6、後期・第4回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第5回 | 上肢（骨・筋・関節・動静脈・リンパ節・腕神経叢）、前期の復習 | | 上肢の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習7・8、後期・第5回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第6回 | 人体模型／組織標本スケッチ①着手 | | 学生は指定された部位のスケッチを行い、名称を同定する。 | | | | | | スケッチの清書、名称同定 | |
| 第7回 | 腹部（骨・筋・関節・腹膜・内臓・血管・リンパ節・神経）、前期の復習 | | 腹部の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習9・10、後期・第6回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第8回 | 骨盤（骨・筋・関節・腹膜・内臓・血管・リンパ節・神経）、前期復習 | | 骨盤の局所解剖を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習11・12、後期・第7回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第9回 | 下肢（骨・関節・血管・リンパ節、腰・仙骨神経叢、前期の復習 | | 下肢の局所解剖図の着色とスライド説明、前期復習13・14、後期・第8回復習問題を次回に提出、次回に中間試験有 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第10回 | 後胸・腹壁と体幹後面（筋・関節・神経）、前期の復習、中間試験 | | 体幹深層を「線描人体解剖学」の着色とスライドで説明、前期の復習15・16、後期・第9回復習問題を次回に提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第11回 | 組織標本／人体模型スケッチ②着手 | | 学生は指定された部位のスケッチを行い、名称を同定する。 | | | | | | スケッチの清書、名称同定 | |
| 第12回 | 脳と脳幹・脊髄（髄膜と脳室系）、感覚器（眼・耳・鼻）、前期復習 | | 中枢神経を「線描人体解剖学」の着色とスライド説明、前期の復習、後期・第10-11回復習問題を次回提出 | | | | | | 復習課題有 | |
| 第13回 | 付図と人体模型スケッチのスキャン | | 教科書等の付図と自分の人体模型スケッチをスキャンする。 | | | | | | 発表の準備有 | |
| 第14回 | 付図と組織標本スケッチのスキャン | | 教科書等の付図と自分の組織スケッチをスキャンする。 | | | | | | 発表の準備有 | |
| 第15回 | 学生スケッチの発表会 | | 学生は1～2分で、自分のスケッチ内容を級友に説明する。 次回に定期試験有 | | | | | | | |
| 評価 方法 及び 評価 基準 | 授業参加と課題レポート・後期復習問題・スケッチの提出（40%）、中間試験と定期試験の得点（60%）によって総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| 教材 教科書 参考書 | <p>(1) 藤田恒夫著「入門人体解剖学 改訂第5版」（南江堂）</p> <p>(2) 千葉正司著「線描骨学実習 第二版」（考古堂）</p> <p>(3) 千葉正司著「線描人体解剖学 増補第三版」（考古堂）</p> | | | | | | | | | |
| 留意点 | <p>「入門人体解剖学」を熟読する。人体模型・組織標本のスケッチは各1枚で、各自、指定された部位をスケッチ・着色し、引出し線を用いて名称（簡潔な説明）を付記して、期日までに提出する。スケッチは指定された日時に、2階実験室・講義室で行う。顕微鏡・標本は丁寧に取り扱い扱う。さらに、冬季休業中に、弘前大学医学部での実習体見学実習が予定されている。鉛筆（Hを2本）、消しゴム、色鉛筆（11色）とB4ケント紙2～3枚、B4封筒、ボードとグリッパ2個（生協で入手可能）を各自用意する。着色・名称記載は丁寧に扱う。</p> | | | | | | | | | |